



目次

- 1. SSL II一部障害のお知らせ (MSP, UXP) 1
- 2. Fortran FALLOCサービスサブルーチン
公開のお知らせ (MSP) 2

SSL II 一部障害のお知らせ (MSP, UXP)

科学用サブルーチンライブラリ SSL II のサブルーチンに一部障害があることが判明しました。障害修正はロードモジュール及び公開中のソースプログラムともに1994年6月20日(月)に修正済みですが、それ以前に下記のサブルーチンを含む自分用のロードモジュールを作成されておられる方は、再作成をする必要がありますのでご注意ください。

サブルーチン名

- LMINF(単精度)
- DLMINF(倍精度)

サブルーチンの機能

一変数関数 $f(x)$ の区間 $[a, b]$ での極小点 x^* と関数値 $f(x^*)$ を求める。ただし $f(x)$ は2階までの連続な微分係数を持つ。

障害内容

区間 $[a, b]$ で $f(x)$ が2階までの連続な微分係数を持っても求められた極小値が区間の外になることがある。

影響範囲

- M1800/20(MSP, UXP)
- VP2600/10(MSP, UXP)

(ライブラリ室 内線 2509)

e-mail : f70029a@kyu-cc.cc.kyushu-u.ac.jp

Fortran FALLOC サービスサブルーチン公開のお知らせ (MSP)

MSP の Fortran77 EX 上で新規に FALLOC サービスサブルーチンを公開します。FALLOC サービスサブルーチンは、ファイルに対する属性を与えファイルを動的に割当てるサブルーチンです。

【呼出し形式】

```
CALL FALLOC(unit, retcd, 文字式, msg1, msg2)
```

引数の文字式 *msg1*, *msg2* は省略可能です。ただし、省略可能な引数を省略し後に続く引数を指定することはできません。

× CALL FALLOC(*unit*, *retcd*, , *msg1*, *msg2*)

【引数の説明】

unit : データセットに対する装置参照番号を示す 4 バイトの整数式を 0 ~ 99 の範囲で指定。

retcd : 復帰コードが返却される。4 バイトの整数型の変数名または配列要素名。

復帰コード	コードの意味
0	正常終了
4	対応なし
8	パラメータに誤りがある
12	動的割り当て時にエラーが発生
16	必須パラメータの指定がない

文字式 : 全体を ' ' で囲み、必要に応じ以下をカンマ (,) で区切り記述する。いずれも省略可能。

UNIT=*unit* : 装置名
FILE=*file* : ファイル名
SYSOUT=*class* : 出力クラス
DUMMY : 装置がダミーファイルの場合
TRK=*trk* : トラック単位の初期量割り当てスペース
CYL=*cyl* : シリンダ単位の初期量割り当てスペース
SECOND=*sec* : 割り当てスペースの増分量
DIR=*dir* : 区分編成の場合ディレクトリブロック数を指定
CONTIG : 割り当てるスペースが連続域であることを示す
RELEASE : ファイルクローズ時に未使用領域を解放する
STATUS=*status* : ファイルの状態を指定
NEW -- ファイルの新規作成
OLD -- ファイルが既存の場合
SHR -- ファイルが既存で他のジョブと共有する場合
MOD -- 追加書きする場合
BLKSIZE=*size* : ブロック長を指定
DSORG=*dsorg* : ファイル編成を指定
PS -- 順編成ファイル
PO -- 区分編成ファイル
LRECL=*lrecl* : 論理レコード長を指定
RECFM=*recfm* : レコード形式を指定
SEQ=*seq* : 高速入出力機能で並列処理する順序番号の個数を指定

msg1 : 診断メッセージの制御を行う

- 0 : メッセージを出力しない
- 1 : メッセージを出力する
- 省略 : メッセージを出力しない

msg2 : 動的割り当て時のエラーの詳細コードに対する診断メッセージの制御を行う

- 0 : メッセージを出力しない
- 1 : メッセージを出力する
- 省略 : メッセージを出力しない

動的割り当て時のエラーの詳細コードを参照する場合、*msg1* 及び *msg2* を指定する必要がある。
この場合、*msg1* の値は 0 でもよい。

【注意事項】

- 文字式中に空白は指定できない。
- 新規ファイルの場合、パラメータで指定された値によりファイルを動的に割り当てる。その際指定されていないパラメータに対する値は Fortran 標準値が採用される。
- CLOSE 文実行時または Fortran プログラム終了時にファイルの解除を行う。
- カスタマイズオプションまたは実行可能プログラムオプションで、動的割当てを行わない指定をしても、本サービスサブルーチンは有効。
- 本サービスサブルーチンで指定したファイル名と同一装置参照番号の OPEN 文の FILE 指定子で指定したファイル名が異なる場合は、OPEN 文を有効とする。
- 文字式中の各々のパラメータの指定可能な組合せは、事前の結合時と同様に JCL または ALLOCATE コマンドの指定に準じる。

【使用例】

- 装置参照番号 1 に対し、A79999A.TEST.DATA というファイル名でレコード形式が FB、論理レコード長が 80、ブロック長が 80 の順編成ファイルを一次量 10 トラック、二次量 10 トラックの連続領域に新規に割り当てる。エラーが発生した場合は、動的割当て時のエラーも含め出力される。

```
CALL FALLOC(1,RC,'STATUS=NEW,FILE=A79999A.TEST.DATA,DSORG=PS,RECFM=FB,LRECL=80,B
+LKSIZE=80,TRK=10,SECOND=10,CONTIG',1,1)
```

- 装置参照番号 2 に対し、既存の A79999A.TEST.DATA という区分編成ファイルのメンバ名 MEMBER を割り当てる。エラーが発生した場合はメッセージは出力されない。

```
CALL FALLOC(2,RC,'STATUS=OLD,FILE=A79999A.TEST.DATA(MEMBER),DSORG=PO')
```

(ライブラリ室 内線 2509)
e-mail : f70029a@kyu-cc.cc.kyushu-u.ac.jp